

共同礼拝

2024年4月28日(日) 午前10時30分
午後4時

司式 牧師 高橋和人
奏楽 大澤葉子

前 奏
招 詞 詩 編 68編20～21節
讃 詠 546
主の祈り
聖 書 詩 編 124編8節 (旧970)
使徒言行録 8章1～13節(新227)
祈 禱
使徒信条
讃 美 歌 294
説 教「福音を知らせながら」牧師 姜 徑米
祈 禱
讃 美 歌 344
献 金
頌 栄 540
祝 禱
後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

4月の祈り

主イエスの復活の光に導かれ、この世の栄えではなく信仰によって見出される恵みの光を仰ぐ歩みを進めることができるように。

礼拝と祈禱会を重んじる教会生活を大切に、身に付いたものとなるように。

新年度の歩みが御心に導かれるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

心を尽くし、思いを尽くして礼拝を捧げることができるように。御言葉に導かれ力づけられて信仰生活を重ねることができるように。

教会のため、求道者のため、礼拝に集まることに困難な人々のため、未陪餐会員のために。

「福音を知らせながら」 姜 徑米

使徒言行録8章1～13節

ステファノの殉教のことをきっかけにして、エルサレムの町で、イエスを信じている人を捕まえて殺してしまおうという大きな騒ぎが起きました。教会に集まっていた人たちは、エルサレムにすることができなくなって、逃げ出さなければならなくなったのです。せっかく順調に成長してきた教会が、散り散りになってしまったのです。

でも、それで教会はなくなってはしませんでした。4節には、「さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた」とあります。エ

ルサレムからあちこちに散らされていった人たちは、行った先々で「福音を告げ知らせ」たのです。

福音というのは、イエス・キリストによって神様が私たちに与えて下さっている救いの恵みのことです。散らされていった人たちは、イエス・キリストのことを伝えていったのです。それによって、あちこの町にもこっこの町にも信じる人たちが起こされていきました。それまではエルサレムだけにあった教会が、このことによって、かえって沢山の町へ広がっていったのです。これはとても不思議なことであります。

反対や攻撃、迫害を受けて、エルサレムにいられなくなってしまったということがきっかけになって、かえって広い地域の人たちが主イエスのことを知るようになり、教会があちこちに広がっていったのです。普通なら、そういう反対や攻撃を受けると、元気がなくなり、力も弱って、集まる人も減ってしまうということになります。下手をすればそのまま消えてなくなってしまうかもしれません。

ところが逆に、このことによって教会はかえって成長していきました。主イエスを信じる信仰が広められていきました。それは、人間の力によることではありません。神様がそこに働いて下さったということです。神様の力は聖霊によって働いています。

聖霊が働いて下さるところでは、私たち人間の思いを超えた、普通では考えられないようなことが起るのです。エルサレムを逃げ出した人たちが、行く先々で主イエス・キリストのことを告げ広めて、教会を成長させていったのは、聖霊のお働きによることだったのです。